

平成 28 年度 森林総合研究所九州地域公開講演会 開催報告

開催日時：平成 28 年 10 月 19 日（水）13 時 30 分～16 時 30 分

開催場所：くまもと県民交流館パレオ 10 階パレオホール（熊本市中心区手取本町 8-9）

テ ー マ：「九州の山を再び元気に」

参加者数：105 名

発表者

○森林総合研究所 森林植生研究領域 主任研究員 山川 博美

林業の植えて育てるコストを減らすーコンテナ苗の利用と下刈省力化の可能性ー

〔要旨〕 国内の人工林の多くは成熟し、本格的な主伐期を迎えています。しかし、木材価格の低迷が続いており、林業経営を続けるためには生産コストの削減が必須となっています。そこで、新たな林業用苗木として「コンテナ苗」の利用、並びに最も労力の掛かる「下刈りコスト」の削減が注目されています。

○九州育種場 育種課育種研究室長 栗田 学

エリートツリーの成長について

〔要旨〕 各地の山で選抜されたスギ（精英樹）のうち、優良なもの同士を人工交配によりかけ合わせ、その中からさらに優れた個体を選んだものをエリートツリーといいます。

エリートツリーはこれまでの苗に比べて成長が早く、下刈り経費の削減や短期間で木材生産に貢献します。

○九州支所 チーム長（特用林産担当） 関谷 敦

九州でのアラゲキクラゲ生産は魅力的！

〔要旨〕 アラゲキクラゲの最適な発生温度は 22.5℃～25℃で、最低でも 15℃は必要です。また、施設内の湿度を湿乾状態にした簡易施設の収穫量が多くなる特性を有していました。温暖な九州では冷暖房設備を有しない簡易施設でアラゲキクラゲ生産できる利点があります。

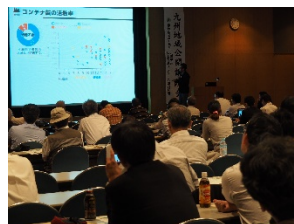
○九州支所 山地防災研究グループ長 黒川 潮

平成 28 年（2016 年）熊本地震により発生した山崩れ

〔要旨〕 平成 28 年 4 月に発生した熊本地震では、建物の倒壊等により 14 日の前震 16 日の本震合わせて 50 名の方が犠牲となりました。林業関係の被害は山腹斜面における崩壊、林道の法面崩壊、山腹崩壊箇所における森林の被害、木材加工施設、きのこ栽培施設の破損が確認されています。地震発生を受け、森林総合研究所九州支所は林野庁、九州森林管理局、熊本県と連携し、山地の被害状況調査を行いました。



開会挨拶



会場内の様子



パネル展示



発表者（山川）



発表者（栗田）



発表者（関谷）



発表者（黒川）